

明治磐梯山噴火

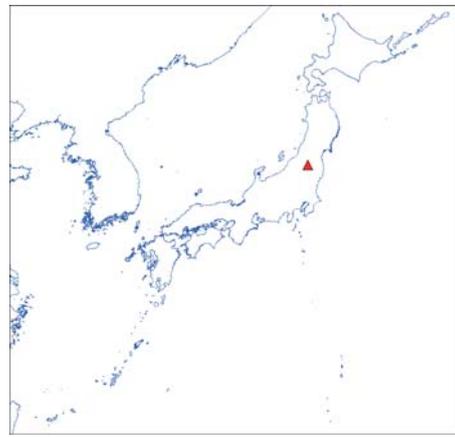
災害の概要：

発生日時：1888年7月15日朝から数時間

発火場所：福島県磐梯山

噴火の種類：大爆発・山体崩壊

死者：461名



1. はじめに

磐梯山は東北地方福島県中部に位置する活火山である(図1)。磐梯山は、1888年7月15日に噴火し、大磐梯(現在の磐梯山)の北側にあった小磐梯の山体崩壊と岩屑流(岩屑なだれ)が北麓を襲い、5村11部落を埋没して約500名の死者を出した。噴火の状況や経過は、噴火当日に噴火地点に近い中ノ湯に滞在し、奇跡的に生還した越後国の住職や地元の小学校の校長、噴火の調査をまとめた帝国大学(東京大学)の関谷・菊池氏に詳しい。

2. 噴火の経過

噴火に先立って、数日前から遠雷や鳴動、軽震があった。噴火当日の15日には7時頃より軽い地震が始まり、8時頃の大きな地震と小磐梯付近で一分間に15~20回の水蒸気爆発が起こった。これらの爆発で小磐梯(図2)の山体崩壊と岩屑流(岩屑なだれ)が発生して北麓を襲った(表1、図3)。噴火活動は数時間で終

息して16:00頃には静穏に戻り、小磐梯が消失していることがわかった(写真1)。

3. 噴火経過と地形形成過程

噴火後の空中写真から火山地形分類図を作成した(図3)。その結果、磐梯山(大磐梯)の北側の小磐梯付近には北向きの大きなカルデラが形成されていた。また、カルデラ北方には箱状の谷や山麓に多数の小丘状の流れ山や、松原湖や小野川湖、秋元湖などの多数の湖沼が形成された(写真2)。

磐梯山の噴火は、数日前から鳴動や軽震があり(第I段階)、15日朝の7:45分頃より多数の水蒸気爆発を伴う噴火が数時間続き、小磐梯の崩壊や岩屑流、流れ山が形成された(第II段階)。そして、夕方には静穏に戻るとい(第III段階)、極めて短時間で激しい噴火であった(表1、図4)。



図1 磐梯山の位置



図2 噴火以前の磐梯山
信遊紀行図絵 遠藤香村筆：会津若松市所有、共同企画展、会津磐梯山、2008による。
(大磐梯の左側に小磐梯が見える)



写真1 噴火後・現在の磐梯山
共同企画展、会津磐梯山、2008による
(噴火で小磐梯は消失した)



写真2 松原湖より望む磐梯山
磐梯山噴火記念館撮影
(山体崩壊・岩屑流による湖の形成)



図3 磐梯火山の火山地形分類図
(関口ほか、1995による)



表1 磐梯山の噴火現象と地形形成(図3)

区分	第I段階 ~7月15日7:30	第II段階 7:45~9:10	第III段階 9:30~16:00以降
噴火現象	遠雷、鳴動とともに軽震などの地震活動が始まる	噴煙上昇、噴石落下、小磐梯直下で水蒸気爆発。山体崩壊・岩屑なだれの発生。	噴火活動の減少 16:00頃に静穏に戻る
地形形成	なし	多数の流れ山の形成。谷の堰止り(後の松原湖などの湖の形成)。アブランジュパレーや線状裂谷・直線状の長い亀裂の形成。	なし

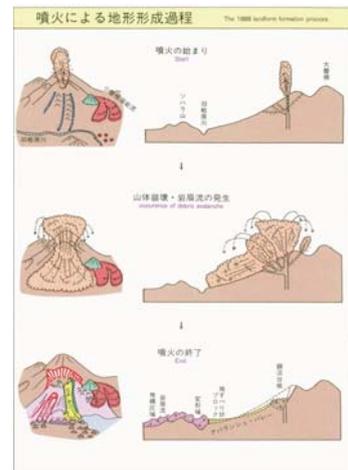


図4 1888年磐梯山の噴火経過と地形形成
(関口ほか、1995による)

参考文献

- 下嶋大輔(1988) 磐梯山の概要：地学雑誌, 97-4, 256-262.
- 関口辰夫・原口和政・岩橋純子(1995)：磐梯山1888年噴火による地形形態。科学技術庁科学技術振興調整費「火山地域における土砂災害予測手法の開発に関する国際共同研究」, 「岩屑なだれ発生場に関する研究」分科会研究成果, 磐梯火山, 127-134.
- 福島県立博物館・磐梯山噴火記念館・野口英世記念館(2008)：共同企画展、会津磐梯山, The Special Exhibition of Bandai, 2008, 88.